

## 経済的側面

## JFEスチール

粗鋼生産量  
**3,283**  
万トン

売上高  
**2兆9,251**  
億円

経常利益  
**5,039**  
億円

会社のURLは  
JFEスチール  
<http://www.jfe-steel.co.jp/>

J F E G R O U P  
B U S I N E S S  
R E P O R T 2007



代表取締役社長（CEO）  
**馬田 一**

第2次中期経営計画においては、技術優位性を活かした高付加価値商品の販売拡大を図り、「顧客から信頼される世界トップクラスの高付加価値商品サプライヤー」を目指すとともに、将来の成長に向けて、高付加価値商品の開発・拡販と、財務体質改善の両立に向けた取り組みを行っています。今後も世界トップレベルの技術開発力の維持・向上に注力し、高付加価値分野を中心としたアライアンス戦略と国内生産基盤の強化に取り組んでいきます。

経営成績		(億円)	
	2005年度	2006年度	
売上高	スチール単独	19,371	<b>20,555</b>
	スチール連結	27,538	<b>29,251</b>
営業利益	スチール単独	3,944	<b>3,888</b>
	スチール連結	5,137	<b>4,999</b>
経常利益	スチール単独	4,045	<b>4,075</b>
	スチール連結	5,107	<b>5,039</b>
ROS	スチール連結	18.5%	<b>17.2%</b>

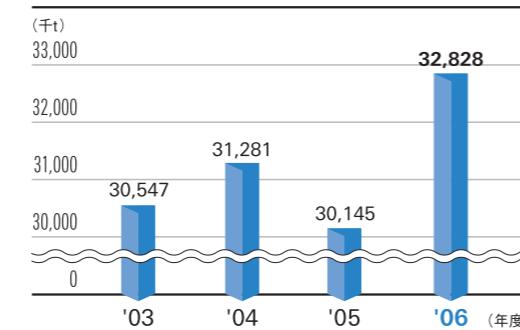
## 2006・2007年度の業績概況

2006年度は、高級品を中心に拡販に努めたことに加え、前年度に実施した需給改善のための汎用品減産の収束もあり、粗鋼生産量は3,283万トン（世界第4位）と、前期に比べ増加しました。

売上高は、販売数量の増加に加え、グループ会社の売上拡大が貢献し、2兆9,251億円と、前期に比べ増収となりました。経常利益は、前期にあった原料評価差額の益がなくなったことや、第1四半期における輸出販売価格の一時的な低下等の減益要因があったものの、販売数量の拡大やコスト削減に努めたことから、前期並みの5,039億円となりました。

2007年度は、国内・海外とも製造業向けを中心に引き続き堅調な需要が見込まれる中、減価償却制度の改正にともなう減価償却費の増加や非鉄金属などの原料価格の上昇があるものの、販売価格の改善および高級品の需給逼迫に対応した増産などにより、経常利益は増益となる見通しです。

## 連結粗鋼生産量



## 2006年度の活動と2007年度の取り組み

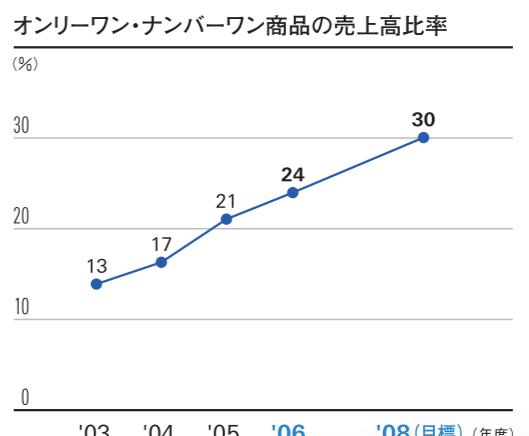
2006年度は、良好な世界経済を背景に、わが国経済も緩やかな成長を維持しました。鉄鋼業においても、2006年の世界粗鋼生産が12億トンを超えるとともに、当社の得意とする高級鋼マーケットにおいては、国内の製造業や中国を中心とするアジア地域で安定的な成長が続いています。

一方、アルセロール・ミッタルの誕生など、世界的な規模での統合・再編が活発化し、中国鉄鋼業もこれまでの大幅な設備能力拡大により純輸出国に転じるなど、取り巻く環境は刻々と変化しています。

そうした情勢の中、2006年度の内需は、製造業向けが好調で、建設関連も首都圏を中心に建築物件が出ており、鋼材需要は堅調さを維持しました。輸出向けは、アジア経済が中国を中心に拡大基調を続けており、鋼材の需要は堅調に推移しています。

2006年度は第2次中期計画の1年目と

して、高付加価値商品の拡大に向けた取り組みを行いました。オンリーワン・ナンバーワン商品の売上高比率を2003年度の13%から24%まで大幅に増やすとともに、福山・第4溶融亜鉛めっき設備や京浜・連続式酸洗設備の建設、知多小口径シームレス钢管能力増など、高付加価値商品の設備増強に取り組みました。



オンリーワン・ナンバーワン商品の  
売上高に占める比率

**24%**



## 経済的側面

また、アライアンス戦略強化の一環として、中国・広州鋼鉄企業集団との合弁会社である広州JFE鋼板の溶融亜鉛めっき設備を順調に立ち上げました。そして、今後も増加が見込まれる中国での高級自動車用鋼板の需要に応えるため、広州JFE鋼板新たに冷延鋼板製造設備、連続焼鈍設備、第2溶融亜鉛めっき設備を建設することについて、広州鋼鉄と合意に至りました。さらに、韓国の東国製鋼とは、高級厚板分野の競争力向上に向けた提携を強化しました。



福山第4溶融亜鉛めっき設備



知多小径シームレス銅管設備

## 2007年度設備投資計画

事業所	工事名	工期	投資額
知多製造所	中径シームレス生産能力増強	2007年07月～2008年07月	150億円
東日本製鉄所(京浜地区)	シャフト炉 新設	2007年06月～2008年08月	100億円
西日本製鉄所(倉敷地区)	CDQ(コークス乾式消火設備)新設	2007年07月～2009年02月	95億円
東日本製鉄所(京浜地区)	酸洗ライン新設	2006年01月～2007年05月	130億円
東日本製鉄所(千葉地区)	14号酸素プラント新設	2006年07月～2007年08月	60億円

## 中国・広州プロジェクト

JFEスチールと広州鋼鉄企業集団有限公司は、主として中国国内の自動車用の溶融亜鉛めっき鋼板を製造・販売する合弁会社「広州JFE鋼板有限公司(GJSS社)」を2003年秋に設立。2006年3月に年産40万トンの第1溶融亜鉛めっき設備を完工し、2007年3月、開所式を執り行いました。

また、両社は、今後とも増加が見込まれる高級自動車用鋼板の需要に応えるため、GJSS社をさらに発展させ、①冷延鋼板製造設備、②連続焼鈍設備、③第2溶融亜鉛めっき設備を新たに建設することにつき、合意に至りました。

今後両社は、合意に基づき詳細条件を詰め、中国政府関係機関の承認を得た後、正式な合弁契約書を締結し、2010年頃の完工をめざします。



## 海外の主な出資先および提携先

■ 主な出資先 ● 主な提携先

